



青森県議会 ニューズレター

2026
春号



県民の家計負担に 寄添う取組みが 予定されています

学校や職場で新年度が始まりました。イランをはじめ中東諸国での戦禍による物価高騰やエネルギー価格高騰の先行きが見通せないなか、法人、個人を問わず県民の皆さまから切実な声が寄せられています。

厳しい経営・家計の状況も踏まえ、第325回定例会では事業者や県民生活の支援策を盛り込んだ県の新年度事業予算が審議され可決成立しました。私がこれまで県に提案要望し今回質問で取り上げた項目のなかから、県民生活に関わる事業内容を中心に報告致します。

プレミアム付き商品券発行事業を支援します

商工会議所及び商工会がプレミアム付き商品券発行事業をおこなうことになり、県はプレミアム20%の補助を通じて物価高の影響を受ける県内事業者や県民生活を支援することが決まりました。

準備が整い次第、各商工会議所や商工会等から住民の皆様へ周知が図られることとなりますが、県もホームページやSNSなどの広報媒体を活用して、効果的な周知に努めていくことにしています。

青森県ひとり親世帯へ臨時特別給付金が給付されます

母子世帯では年収250万円未満が約6割を占めているほか、養育費の取り決めをしていないなど、多くのひとり親世帯が経済的に厳しい状況にあります。一般世帯よりも年収が低く、物価高騰の影響が特に大きい低所得のひとり親世帯の経済的負担を軽減することを目的に、令和8年に4月分の児童扶養手当を受給した県内のひとり親世帯に対し、「青森県ひとり親世帯臨時特別給付金」が給付されることになりました。

支給対象となる児童数は約16,500人に児童一人あたり20,000円が児童扶養手当の受取口座に給付されます。支給事務の準備が整い次第、遅くとも9月までには給付される予定です。

伊吹 信—プロフィール

会派 公明党所属
総務政策子ども委員会委員
新幹線・鉄道問題対策特別委員会委員
青森県防災士会相談役 防災士
2級知的財産管理技能士 経営士
温泉観光士 温泉保養士
温泉入浴指導員
<http://www.ibukista.com/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
青森県議会議員

いぶき信

県民の命と安全安心に寄添う取組み

脳卒中・心臓病等の循環器病患者を包括的に支援

県内における脳卒中・心臓病等の循環器病患者を中心とした包括的な支援体制を構築するため、「青森県・弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター」が弘前大学医学部附属病院に設置されています。

相談支援体制の確保・関係機関との連携体制構築・住民向けの分かりやすい広報の実施を通じた患者支援体制の充実に努めていくことになります。患者や家族等への相談窓口の設置と専門職による相談対応・関係機関が連携して、治療や支援ができるような体制づくりに向けたネットワークミーティングや講演会の開催・循環器病に関する予防も含めた情報提供及び普及啓発等に取り組むことにしています。

高次脳機能障がい者支援を促進

県は、高次脳機能障がい者の自立と社会参加を推進するため、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターとメディカルコート八戸西病院を支援拠点に指定し、高次脳機能障がいと関連する障がいに対する支援・普及事業を委託しています。

対象となる患者やご家族が最も多いとみられる青森地域への支援拠点が整備されていないことから、私は一日も早い設置を県に要望しました。

あすなろ療育福祉センターの移転新築を了承

青森県療育福祉センター運営あり方検討会「第3回あすなろ部会・第4回全体会」が3月18日に開催され、あすなろ療育福祉センターの移転新築が了承されました。令和8年度中に移転先候補地を決定することになります。私はあすなろ療育福祉センターの現地調査や利用者家族と職員等からの声を踏まえ、医療との連携が図られるよう県立青森第一養護学校とともに統合新病院周辺への移転新築を県に提案してきました。医療的ケアが必要な子どもとご家族のサポートの充実に繋がるよう引き続き取り組んで参ります。

ドクターヘリ運航継続

燃油高騰や機体の損傷、運航スタッフの育成等の課題に直面し、運航停止を余儀なくされる事態が全国で発生し始めています。県民の生命を守る救急救命の砦として、私はドクターヘリ導入提案から一貫して安定運航の継続を訴えてきました。

令和6年度の本県のドクターヘリの出動件数は県立中央病院が307件、八戸市立市民病院が357件の計664件を数えています。

救急救命の強化に引き続き取り組んで参ります。



病院救急車活用により病院間の患者搬送を整備

二次救急、三次救急を担う高次の救急医療機関が、治療により回復した患者を、連携する医療機関へ転院搬送を行い、救急医療のための病床を確保する取組を促進するため、救急医療機関における病院救急車の導入を支援していきます。弘前大学医学部附属病院、弘前総合医療センター、八戸市立市民病院及び県立中央病院の4病院で運転手を確保し、弘前大学医学部附属病院及び八戸市立市民病院の2病院で設備整備を予定しています。

ICTを活用したオンライン診療・遠隔診療システム導入を促進

県は、へき地等の住民が医療を受ける環境の維持・向上のため、へき地診療所におけるオンライン診療や遠隔診療システムの導入、ICTを活用した巡回診療等を行うための車両の整備等の支援に取り組んでいきます。

モバイルICTによる救急医療情報共有システムは、医療機関や救急隊等が救急搬送等の患者の画像やバイタルデータ等の情報をスマートフォン等で共有するもので令和8年3月末時点で県内14の医療機関で導入されています。患者情報を円滑に共有することで、より迅速な応急処置や専門医による遠隔での診療支援が可能となり、患者にとっては、治療開始までに必要な時間の短縮、生存率の向上、医療機関にとっては、不要な呼出しを避けられるなど、医師の負担軽減も期待されます。



「耳で聴くハザードマップ」をご活用ください

「耳で聴くハザードマップ」は、スマートフォン等で防災に関する情報を音声で聴くことができるサービスで、利用者の現在地、標高、気象情報、洪水・土砂災害・津波などの災害リスク、最寄りの避難場所までの道案内などの情報を聴くことができます。視覚に障がいがある方や小さな文字が見えにくい高齢の方などが、平時から津波や洪水等の災害リスクを認識することで、早めの避難につなげていただくため、県は令和6年4月から県民の皆さまがサービスを利用できるようにしています。

「耳で聴くハザードマップ」の利用拡大を図るため、県視覚障がい者情報センターを通じて支援が必要な方への周知を行っているほか、県ホームページへの掲載、民放ラジオによる広報、市町村への周知依頼などを行っています。私は「耳で聴くハザードマップ」の導入提案者として、多くの県民や外国人観光客の方々の活用を通じた安全安心の向上に繋げて参ります。

ケアプランデータ連携システム導入を支援

居宅介護支援事業所と介護サービス事業所との間では、主にファックスや郵送等によりケアプランの共有が行われており、業務の効率性、情報管理の安全性に課題を抱えています。

令和6年度に先行してケアプランデータ連携システムを導入した野辺地町では、ペーパーレス化が進んだほか、サービス利用票への転記等の業務量の削減につながりました。このため市町村を通じて県内の事業所への導入を図り、業務の効率化、介護職員の負担軽減につなげていくことにしています。

安全安心な冬の暮らしへ課題改善と新たな取組み

県民への情報共有

長い期間にわたり青森市の生活道路の除排雪が未実施となる事態が続き、県民の日常生活に困難を来し、県都の機能に著しい支障が発生しました。このため「除排雪資機材のマッチング支援」や「スクラム除雪」のほか、新たな手法として「代行除雪」を県から青森市に提案し、それぞれ実行しました。

県は再三にわたり生活道路の除排雪の実施を促しましたが、除排雪が実施されないエリアがあることを県として確認し、県都の機能を守るため、異例ではあるものの、青森市の生活道路全170工区を対象とする上限額10億円の財政支援を実施し、生活道路の除排雪の実行を促すことにしました。

今後青森市から提出される実績報告を県が精査して、金額を確定させた上で、交付することとなります。

実績報告の裏づけとして、工区の箇所及び延長、精算額、着工年月日、完了年月日、稼働した機械及び稼働時間などを確認できる資料の提出を求めています。

今冬の豪雪を踏まえ、県民目線で効率的な除排雪を実行するためには、道路管理者間のより一層の連携が必要と考えます。

県は、今年1月から2月にかけて、黒石市と十和田市の一部エリアにおける除排雪作業状況をウェブ上の道路除排雪情報一元化マップで公開し、マップの見やすさや内容の充実度などについて県民モニターを対象にアンケート調査を行いました。その結果、回答者の7割以上が、情報一元化マップが冬の日常生活に役立つと答え、半数以上が、マップの見やすさと使いやすさを好意的に評価する一方、3分の2の回答者が、マップに役立つ情報として、除雪作業の出動指令や開始予定の情報を挙げるなど課題もみえてきました。

このため、既に除排雪機械にGPSを導入済又は導入を検討している市町村などとの連携を進めながら、道路除排雪情報一元化マップの令和8年冬の全県での稼働に向け取り組んでいくことにしています。

また、降雪エリアの予測モデル構築などを目的とした専門機関との共同研究など、迅速な情報共有や除排雪の徹底した可視化・効率化を目指す「青森ゆきみちDX」の取組も着実に進めています。



生活道路の降雪障がいに至るところで発生しました



青森県排雪予定マップ

<https://www.pref.aomori.lg.jp>



X(エックス)
青森県道路課
@kendo_douro

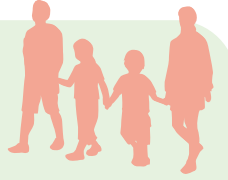


X(エックス)
青森県道路課(通行規制情報)
@aomoriken_douro



青森みち情報

<https://www.koutsu-aomori.com>



命を守り暮らしを結ぶ半島部の道路機能を強化

2021年に下北半島、2022年に津軽半島で発生した線状降水帯の大雨被害による土砂崩落や道路寸断を踏まえ、私は半島部の道路機能の強化を求めてきました。

下北縦貫自動車道では横浜吹越I.Cから横浜I.C8.5km区間、むつ奥内I.Cからむつ東通I.C5.3km区間が3月14日に開通し、全線開通へ大きく前進しました。



横浜吹越I.Cから横浜I.C区間の開通式がおこなわれました。



下北半島縦貫道路令和7年度開通区間マップ



2018年4月21日石井啓一国土交通大臣(当時)の公務視察を経て新規事業化が決定しました。

三厩停車場竜飛崎線 あじさいロード冬期除雪

2022年8月の豪雨災害に見舞われた外ヶ浜町三厩地区では、「津波浸水想定区域にある国道339号と並行する県道三厩停車場竜飛崎線(あじさいロード)を繋ぐ4カ所のアクセス町道を外ヶ浜町が、あじさいロード交差点周辺を県がそれぞれ除雪し非常時の避難路確保の備えとしています。

いつ発生するか分からない災害に備える為にもあじさいロードを通常通行できるようにして欲しいとの地域住民からのご要望を受け、外ヶ浜町との協議検討を県に要望しました。



併せて毎年4月下旬のあじさいロードの全線開通を、観光客の津軽半島周遊観光に間に合うよう排雪作業を前倒しすることも県に要望しました。

三厩停車場竜飛崎線
アクセス道路マップ

指定避難所の 環境整備を促進

自然災害発災初期から避難所の良好な生活環境が確保されるよう、指定避難所となっている県立学校などに配備する資機材等を整備します。

良好な避難所の確保には、T(トイレ)、K(キッチン)、B(ベッド)に関連する資機材の整備が不可欠です。

既に自動ラップ式トイレと簡易ベッド・パーティションを整備していることから、今後、炊き出しセットや、避難生活に不可欠な避難所用照明器具等を整備することとしています。

また、能登半島地震においては、一部地域を除き、電源が概ね復旧するまで1か月程度を要したことを踏まえ、昼夜を問わず電源が確保できるよう、ポータブル電源及び発電機も整備することとしています。

発行者・連絡先

公明党 伊吹信一

TEL 017-734-9816 / FAX017-722-6148 /
URL <http://www.ibukista.com/>



@ibuki_shinichi



@ibuki.shinichi

